

ジェイシフ

# JSHIF

斎藤会長 年頭所感

第26回定時総会・第71回理事会

2014スポーツ&レジャーフェスティバル

第12回シンポジウム／第2回スポーツ振興賞

第13回シンポジウム

平成26年度情報交換会他

---

公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会

2015.1  
NO.61





# 年頭所感

2015年1月吉日

公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会

齋藤敏一

2015年の新春を迎え皆様ともどもお慶び申し上げます。スポーツには夢や希望をもたらし、心をはらす大きな力があります。2020年東京オリンピック・パラリンピック大会は、世界に冠たる日本の組織力、運営能力、企業・ボランティア等の皆様のご協力等で大会の成功は間違いのないところudur。一流アスリートの華麗さを間近に観ることにより人々のスポーツの機運は一層高まり、海外から観光客等大勢の人々の来日も期待されます。しかし、開催の成功は大会目的の半分で、開催後に向けてオリンピックレガシーをどのように創出し、次世代に継承するかが問われております。レガシーの成果は、選手への助成増強、健康生活の向上、インフラ整備、雇用創出、観光客の増加、環境配慮、コミュニティの強化など様々なものがあります。2020年に向けての準備は始まったばかりです。産業界、企業、一人ひとりの個人が何ができるのか、何を残していけるかが課題です。良いレガシーを出来るだけ多く、次世代に確実に継承することが、スポーツ産業にとって大きく発展する原動力となります。

健康産業では、「健康経営」への取組みが加速しています。これは、企業や健康保険組合が社員とその家族の健康管理、健康の維持増進を図るものです。政府も積極的に取り組んでおり、厚生労働省では、「健康寿命の延伸」を目指し、二十一世紀における第二次国民健康づくり運動や、新たに運動・食生活・禁煙・健診受診に特化した「スマート・ライフ・プロジェクト」活動が開始されました。また、経済産業省では、経済成長を促進させる「日本再興戦略」において、「予防サービスや健康管理の充実により、健やかに生活し、老いることができる社会の実現を目指す」とし、健康寿命延伸産業の育成や予防・健康管理の新たな仕組みづくりに取り組んでおります。最近、東京、大阪等の大都市や、

地方の市町村で市民マラソン、ウォーキング等の大会が盛んです。身体を動かすことによって、心臓や脳は活性化します。楽しんで運動することこそが健康への最良の道です。

本連合会では、昨年3月に第2回スポーツ振興賞の表彰式を行いました。同賞は、スポーツを通じて地域振興に貢献したと認められる団体・グループ等を顕彰するものです。平成20年度に「地域・スポーツ振興賞」として創設し4回実施した後、平成24年度にJSTAと共同で実施するために「スポーツ振興賞」に発展的に改称したものです。第2回スポーツ振興賞は、全国から23件と多数のご応募があり、「スポーツツーリズム賞」として観光庁長官賞1点、日本スポーツツーリズム推進機構会長賞1点、また、「スポーツとまちづくり賞」として経済産業省商務情報政策局長賞1点、日本商工会議所奨励賞1点、スポーツ健康産業団体連合会会長賞1点、の授賞を行いました。現在、第3回目の募集をしておりますので、多数のご応募を期待しております。

また、スポーツ人口の拡大とスポーツ産業の一層の振興のためにシンポジウムを2回、情報交換会を1回開催するとともに、例年実施しております市民生涯スポーツ大祭を熊本県で実施し、多数の県民のご参加をいただきました。昨年12月に開催されましたスポーツ・健康関連の日本最大の専門展示会「SPORTEC 2014」においては、当連合会はセミナーの開催を含め特別協力を行いました。

本年も事業計画に掲げた事業の実現を図り、スポーツ人口の拡大のためにスポーツの普及の振興はもとよりスポーツ健康産業の一層の発展に努めてまいります。皆様の益々のご発展とご活躍をお祈りし年頭の挨拶といたします。



## 第26回 定時総会

2014年6月10日(火)、東京都港区のスタジアムプレイス青山で第26回定時総会が開催された。代理出席および委任状を含めた25名が出席。

議長に選出された斎藤会長が出席者に対して謝辞を述べ、平成25年度事業が無事終了したことを報告。さらに平成26年度事業計画の事業実施にあたっての協力をお願いした。また、経済産業省の健康寿命の延伸事業等スポーツ健康産業に関わる取組みと厚生労働省の健康経営についての動向を説明した。

議事録署名人の選出後、議事に入り、平成26年度の事業計画及び平成26年度収支予算書が報告された後、平成25年度の事業報告、平成25年度決算報告、新任理事・監事の選任及び退任理事・監事の承認などの案件が審議され、すべて可決承認された。

### 平成25年度 事業活動概要

- 事業部会 「第11回シンポジウム」「第12回シンポジウム」「情報交換会」「第2回スポーツ振興賞」
- 地域スポーツ振興部会 「2013スポーツ&レジャーフェスティバル(公益財団法人JKA補助事業)」
- 広報宣伝・調査部会 「医療マネジメントの標準化・可視化事業」「機関誌JSHIFの発行」
- その他の事業 「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2014」「日本スポーツ産業学会への支援」他

## 第71回 理事会

同日、総会に先立って第71回 理事会が開催された。出席は、本人出席が16名で定足数(27名)の2分の1以上の出席があるため理事会は有効成立。斎藤会長が議長に指名された。

議長は出席者に謝辞を述べるとともに平成25年度事業が無事終了したことを報告。さらに平成26年度事業計画について十分な審議と事業実施にあたっての協力をお願いした。また、SPORTEC2014について引き続き特別協力をしていくことやスポーツ振興賞事業等をしていくことを報告した。

その後、シンポジウム、情報交換会、スポーツ振興賞、スポーツ&レジャーフェスティバル、医療マネジメントの標準化・可視化事業及び機関誌JSHIFの発行などの平成25年度事業の活動について報告がなされ、全員異議なく拍手をもって承認された。引き続き審議に入り、平成25年度決算報告及び新任理事・監事の選任及び退任理事・監事の承認(案)、部会構成メンバー変更などが諮られ、すべての議事が承認され、第71回理事会は終了した。

### 平成26年度 事業計画

- 事業部会 「シンポジウム」「情報交換会」「スポーツ振興賞」
- 地域スポーツ振興部会 「市民生涯スポーツ大祭(公益財団法人JKA補助事業)」
- 広報宣伝・調査部会 「機関誌JSHIF」「調査研究事業」
- その他の事業 「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2015」「SPORTEC2014特別協力」「日本スポーツ産業学会への支援」他

### 役員名簿(平成26年6月10日現在)

役員名	氏名	勤務	団体・会社名	役職
名誉副会長	中野 啓二郎	非常勤	株式会社イースタンスポーツ	代表取締役会長
代表理事 会長	斎藤 敏一	非常勤	株式会社ルネサンス	代表取締役会長
業務執行理事 副会長	岩井 大助	非常勤	株式会社エバニュー	代表取締役社長
業務執行理事 副会長	池田 朝彦	非常勤	公益社団法人日本ボウリング場協会	顧問
業務執行理事 副会長	原田 宗彦	非常勤	早稲田大学	教授
業務執行理事 専務理事※	板垣 勝男	常勤	公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会	専務理事
理事	石井 淳	非常勤	株式会社博報堂	テーマプロジェクト推進局局長代理
理事	大石 順一	非常勤	一般社団法人日本ゴルフ場事業協会	専務理事
理事	尾山 基	非常勤	株式会社アシックス	代表取締役社長CEO
理事	加藤 誠	非常勤	株式会社ジェイティービー	観光戦略部長
理事	加藤 昌治	非常勤	ミズノ株式会社	代表取締役専務
理事	栗山 雅則	非常勤	公益社団法人日本テニス事業協会	副会長
理事	佐々木 剛	非常勤	スポルテック株式会社	代表取締役
理事	重森 仁	非常勤	日本スポーツ用品協同組合連合会	理事長
理事	下光 輝一	非常勤	公益財団法人健康・体力づくり事業財団	理事長
理事	田中喜代次	非常勤	筑波大学	教授
理事	丁野 朗	非常勤	公益社団法人日本観光振興協会	常務理事・総合研究所長
理事	杖崎 洋	非常勤	一般社団法人日本フィットネス産業協会	専務理事
理事	中島 順	非常勤	株式会社電通	ビジネス・クリエイション・センター局次長
理事	野川 春夫	非常勤	独立行政法人日本スポーツ振興センター	監事
理事	馬場 宏之	非常勤	一般社団法人日本ゴルフ用品協会	会長
理事	久岡公一郎	非常勤	株式会社東京ドーム	執行役員
理事	平野 哲行	非常勤	株式会社平野デザイン設計	代表取締役社長
理事	三ッ谷洋子	非常勤	株式会社スポーツ21エンタープライズ	代表取締役
理事	三野 哲治	非常勤	公益社団法人日本パブリックゴルフ協会	会長
理事	山中 祥弘	非常勤	ハリウッド大学院大学	学長
理事	渡邊 光康	非常勤	公益財団法人大崎企業スポーツ事業研究助成財団	理事
監事	小坂 勉	非常勤	千葉・小坂会計事務所	税理士
監事	服部 広行	非常勤	株式会社朝日広告社	第一営業本部 本部長

※専務理事 板垣 勝男 最終官歴 経済産業省関東経済産業局総務企画部次長

# 2014 スポーツ& レジャーフェスティバル

—この事業は競輪の補助金を受けて実施しました—

KEIRIN

00

競輪補助事業



RING!RING!  
プロジェクト  
競輪の補助事業



熊本朝日放送キャラクターの「ケービーふあふあ」。  
愛らしいキャラクターで子供たちに大人気

人気の「ナインフーズ」。  
幼いお子さんはお父さん  
に抱えられてゴール





会期 2014年10月18日(土)～19日(日)

主催 スポーツ&レジャーフェスティバル運営委員会  
(公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会・  
熊本朝日放送(株))

会場 グランメッセ熊本 屋外芝生広場

後援 経済産業省、文部科学省

スポーツ&レジャーフェスティバルは、さまざまなスポーツ種目を活用して、スポーツ意識の浸透を図ることをテーマに、地域を元気にしようこれまで全国各地で開催されてきた市民生涯スポーツ大祭です。今回は、熊本県民の心と健康づくりを図ると共に、「ふるさとくまもと」への郷土愛を育むことを目的として熊本県で開催されました。子どもからお年寄りまで幅広い県民の参加を得て、また天候にも恵まれ、大変多くの方々にご来場いただき、成功裏に終わることができました。

期間中の観客動員数 延べ 19,700名

イベント	18日(土)	19日(日)
開会式	200	—
ナインフープス	3,000	3,500
サッカーナイン	3,000	3,500
スルーパス	3,000	3,500
合計入場者数	9,200	10,500

2日間の延べ来場者は、1万9千人を超えました。来場者の皆さんは朝早くから会場へ足をはこばれ、夕方まで一日中楽しまれたことと思います。また、熊本朝日放送主催の「KAB 元気フェスタ 2014」との同時開催ということもあり、10月18日(土)には午前と午後を生中継番組が放映され、イベントの盛り上げに大変効果を及ぼしました。そのほか、芝生広場には、熊本朝日放送キャラクターの「ケービーふあふあ」が設置され、

イベントのシンボルサインとして大変目立っていたこともあり、来場者の芝生広場への誘導に大きく寄与していました。

今回、ニュースポーツとしてナインフープス、サッカーナイン、スルーパスを実施し、全てのスポーツにお年寄りから子供までご参加いただき、まさにスポーツ&レジャーフェスティバルの考えにふさわしいイベントとして充実した2日間でした。



「スルーパス」コーナー。  
小さな足で一生懸命  
蹴ります！



テレビでもお馴染み、枠のなかにサッカーボールを通す  
「サッカーナイン」。難しくて悪戦苦闘



当日はさまざまな熊本の  
名産品なども販売。  
会場は多くの人で賑わった



# 第12回シンポジウム

## スポーツによる地域活性化

2014年3月3日、東京都港区のスタジアムプレイス青山にて第12回シンポジウムが開催された。年々増加する日本を訪れる外国人旅行者。スポーツイベントへの参加や観戦などを利用すれば、より多くの国々の方に素晴らしい体験を提供できるだろう。国土交通省観光庁スポーツ観光推進室長の八木和広氏をお招きし、『観光立国の実現とスポーツツーリズムの推進について』講演いただいた。



講演『観光立国の実現とスポーツツーリズムの推進について』  
国土交通省観光庁 スポーツ観光推進室長 八木和広 氏

八木和広氏



### 第2回スポーツ振興賞 発表

スポーツツーリズムやスポーツによるまちづくりに大きく貢献した者を表彰する「スポーツ振興賞」第2回目の授賞式が開催された。応募総数23件

の作品の中から「スポーツツーリズム賞」として国土交通省観光庁長官賞、日本スポーツツーリズム推進機構会長賞を、「スポーツとまちづくり賞」として経済産業省商務情報政策局長賞、日本商工会議所奨励賞、スポーツ健康産業団体連合会会長賞の5点を選定しました。

#### スポーツツーリズム賞

国土交通省観光庁長官賞



作品名：神戸ランニングフェスティバル  
応募者：神戸ランニングフェスティバル実行委員会（兵庫県神戸市）

『若い世代、女性の参加者、企画実行者が多く、マスクミにも広く取り上げられているという点で、意義のある取り組み』

一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）会長賞



作品名：諏訪湖温泉ラージボール卓球大会  
～広域連携によるスポーツツーリズムの推進～  
応募者：諏訪湖温泉ラージボール卓球大会実行委員会（長野県岡谷市）  
『誰でも楽しめるラージボールと温泉との組み合わせが面白い』

#### スポーツとまちづくり賞

経済産業省 商務情報政策局長賞



作品名：40年前から推進する「スポーツ」による地域活性化及び観光客誘致  
応募者：一般社団法人洞爺湖温泉観光協会（北海道虻田郡）

『まさに地域の手作りでスタートし、それを発展させる形で40年継続させ、なお参加者数を増やし続けていることは称賛に値する』

日本商工会議所 奨励賞



作品名：ツール・ド・三陸2013  
～りくぜんたかた・おおふなと～  
応募者：ツール・ド・三陸2013実行委員会（岩手県陸前高田市）

『地域の資源を活用し、国内外から幅広い賛同、協力を得て、一度廃止された事業をバージョンアップして実現したことは素晴らしい』

公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会 会長賞



作品名：スポーツと街づくり  
「スポーツによる町興し～群馬県みなかみ町」  
応募者：株式会社デサント（東京都豊島区）

『計画性、実効性、多様な関係者間の連携が非常に高度なレベルで実現されている』

『』内は選考委員のコメント(一部抜粋)



# レガシーの創造 ～2020年東京オリンピック・ パラリンピックに向けて～

2014年9月3日(水)、公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会が、第13回シンポジウムを開催した。「レガシーの創造～2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて～」をテーマに、早稲田大学スポーツ科学学術院教授間野義之氏、長野パラリンピックにて、冬季パラリンピックでは日本人初の金メダリストとなった株式会社電通パブリックリレーションズ大日方邦子氏、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会準備運営局長杉浦久弘氏が講演を行った。



左より大日方邦子氏、杉浦久弘氏、間野義之氏

2020年、日本において56年ぶりに開催される東京オリンピック・パラリンピック。東京での招致決定の際は日本中が大いに盛り上がったが、実際に大会を成功に導き、日本が開催による恩恵を受けられるかは、これからの国民一人ひとりの意識や行動にかかっているといえる。国際オリンピック委員会 (IOC) も、毎回開催都市ならびに開催国に有形・無形に関わらず、開催による何らかの功績、要するに遺産(以下、レガシー)を残すことに力を入れている。ここで、間野氏は、一般的にレガシーというと、ポジティブな面だけに目を向けられがちである点について触れ、次のように述べた。「正しくはレガシーにもポジティブ・ネガティブの両方があります。いかに後者を減らし、前者を増やすか。ネガティブなレガシーも含め、広い視野をもつことが大切です」。確かにこれほどのビッグイベントを開催するにあたっては、決していいことばかりではないはずだ。

さらに、同氏が指摘した次のようなことには、参加者のなかにも気を引き締めた者がたくさんいたに違いない。「オリンピック・パラリンピックの開催にあたっては、それだけで何かよいことがあるだろうという意識をもつ方がほとんどですが、そうではありません。自分たちから働きかけて初めてよいことが起きるのです」。

なお、大会の成功要因のひとつには、やはりメダルの獲得数も含まれるだろう。間野氏に続いて登壇した杉浦氏は、過去の大会や他国の例などを参考にしたうえで、日本には、ポテンシャルが高い選手がまだまだ多くいると考えられることから、国・地方の連携をさらに強化して、メダルに近いとみられる選手の育成・強化に力を入れる必要性について述べた。そして、「地

方でも、トレーニング専用施設がもっと求められてくるでしょうが、単なる施設の新設ではなく、既存施設などを上手に活用しつつ、地元の大学や各地域のトレーニングセンターとつながるなど、スポーツ医科学を活用した育成強化システムやネットワークをつくるのがむしろ重要となるでしょう」と語った。さらに同氏は、各地から地元の伝統産業の発信を求める声が寄せられていることを紹介し、そうした各地の動きも絡めれば、「'20年の東京大会が、地方から新しいビジネスが生まれるきっかけにもなるのではないかと期待を口にする。大会開催にあたってさまざまな地方を元気づける取り組みが実現すれば、それこそ大きなレガシーのひとつになるだろう」。

3人目に登壇した大日方氏は、実際にパラリンピックを経験した者として、選手の目線から貴重な意見を述べた。自身の金メダルが決定したときは「知らない人から『勇気や感動をありがとう』と感謝され、とても感動した」と言う同氏。その感動をつくるために、皆で一緒に大会を盛り上げていくことの大切さを強調したうえで、その好例として'12年に開催されたロンドンオリンピック・パラリンピックを挙げた。「ボランティアの方は、自分たちのことを『ゲームズメーカー』(大会をつくる者)と呼んでいました。その意識や誇りが日本でも起きれば、それ自体、レガシーになるはずですよ」。

さらに、同大会では、ベビーカーや車椅子用のストレージが整えられていたことが印象的であったという。日本では、車椅子の方や小さなお子さまをもつ方などが行きづらい場所がまだまだ多い。開催までに皆が楽しめる環境がいかに整えられるかは、今後の大きな課題であろう。

## 次世代ヘルスケア産業への期待～成長戦略2年目の取組み～ 総合的ヘルスケアサービスソリューションの構築事業

平成26年11月20日(木)、弘済会館において公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会主催「次世代ヘルスケア産業への期待～成長戦略2年目の取組み～」と題したセミナーが開催された。

講師

「次世代ヘルスケア産業への期待～成長戦略2年目の取組み～」  
森田弘一氏 経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課長  
「総合的ヘルスケアサービスソリューションの構築事業」  
鈴木清晃氏 株式会社ローソン 社長補佐



最初に講演に立った経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課長 森田弘一氏は、健康寿命延伸産業に関する政府内のこれまでの動きとして、増大する医療・介護費と公的保険外の取組みについて紹介した。そのうえで、今後の対応の方向性として、慢性期医療にかかる医療費を、公的保険外のサービスを活用した予防・健康管理にシフトさせることにより、一石三鳥の「国民の健康増進」「医療費の適正化」「新産業の創出」を実現したいと語った。また、地域において公的保険外のサービスを活用することにより、地域の「経済活性化と医療費適正化」に貢献できると話し、そのような流れを促す必要性について述べた。

続いて登壇したのは、株式会社ローソン 社長補佐 鈴木清晃氏。同社が近年、積極的に進めている健康に関するさまざまな取組みについて紹介した。

現在、全国に12,000店あるローソンは、それまで「マチの『ほっと』ステーション」であったキャッチコピーを、2013年10月「マチの『健康』ステーション」に変更した。「私たちは『みんなと暮らすマチ』を幸せにします。」の企業理念実現のためには、本気になって「健康投資、健康経営」を実現しなければならないとの「変革の意思」の表れである。そして、それを確実に進めるための様々な取組み、商品の開発、新サービスの提供を積極的に進めている。全国20ヶ所の「ローソンファーム」からの美味しく、安全な野菜の生産と販

売、美味しく大好評の「ブランのパン」のシリーズ化、そして2014年5月には大手フィットネス事業者と連携し、新たな「運動メニュープログラム開発」、同時に「Ponta 会員などへ向けた健康管理サービス」の開発にも着手している。

さらに、同社が「みんなと暮らすマチ」の人々を健康にすることと同じく重要と考えているのが、「健康投資（経営）」だ。社員一人ひとりが健康で、元気に仕事をし続けること、そしてそれを通じ初めて「マチのみんな」の「健康経営」のサポートができ、企業としても継続した成長を実現していくことができるのだ。鈴木氏は「様々な議論を交わし、『健康経営』の重要性を社員に伝え、当社では健康診断の受診を義務化しました」と述べる。さらに、一部の社員には、同社が開発した「健康アプリケーション」を利用し、食事の登録、歩数計での運動の習慣化を推奨したところ、6割以上に健康状況の改善が見られたという。「皆で取り組むことによって『今日は、どう?』などと職場でも話題になるのです。どれだけ周囲を巻き込み、楽しみながら取り組んで行けるかが、『運動や食習慣の改善』にはとても有効だとわかりました」と、鈴木氏は仲間と一緒に取り組むことが健康増進へのポイントとなることを述べた。

同社は今後も社員、そして「みんなと暮らすマチ」の「健康経営・健康増進」に向け、さまざまな取組みを実行していくことだろう。

事前予告

### 第14回シンポジウム、第3回スポーツ振興賞表彰式

期日：平成27年3月3日(火) 場所：東京都千代田区 弘済会館

JSHIF2015.1 No.61

発行 公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会  
Japan Sports Health Industries Federation  
〒106-0032 東京都港区六本木6-2-33  
六本木ヒルズノースタワーアネックス3階  
Tel: 03-6434-9510 Fax:03-6434-9511  
ホームページアドレス <http://www.jsif.or.jp/>

発行日 2015年1月15日

発行責任者 広報宣伝・調査部 部会長 池田朝彦

編集協力 株式会社クラブビジネスジャパン



事務所を移転しました